

「森林セラピー」

同窓会長 伊東 尚志
(上市町長)

同窓会員の皆様にはますますご壮健でご活躍のこととお喜び申し上げます。

さて、上市町では昨年3月に森林セラピー基地「つるぎ きらめきの森」の認定を受けました。

森林セラピーとは、森林浴効果のことで、町の豊かな自然を利用して訪れた人々にストレスを解消し心と体の健康を体験してもらおうという取り組みです。眼目地区や大岩地区、馬場島地区に「セラピーロード」を整える計画です。

昨年は、眼目山立山寺周辺の遊歩道をセラピーロードとして整備し、今年度は大岩山日石寺周辺の整備を実施する予定としております。「おおかみこどもの雨と雪」のモデルとなった古民家も近くにあり、国内外から多く

のファンが訪れておりますが、これらも含めたセラピーロードにしたいと考えております。

また、平成18年より閉鎖していたショッピングセンターを町が購入し、本年4月より周辺の高齢者への買い物支援として生鮮食料品店などのテナント、子育て世代の母親を中心とした交流スペースとしてオープンしておりますが、上市高校生は、小学校児童を対象とした「おもしろ理科工作」教室や美術作品の展示など地域の一員としてその存在感を示しております。

同窓会員各位には、母校の町の観光・地域振興にご理解を願うと共に改めて上市高校の更なる発展と各位のご多幸を祈念申し上げ、ご挨拶といたします。



「人間力」を身につけるには

校長 菊池 政 則

「沈黙は金」という言葉があるが、イギリスの思想家・歴史家のトーマス・カーライルの著書「衣装哲学」に出てくる言葉である。その中では、単に「沈黙は金」とだけでなく、「雄弁は銀、沈黙は金」と出てくるのであって、よどみなく話せることを大事としながらも、沈黙すべき時やその効果を心得ているのはさらに大事であるということを示している。

日本でも同様に、古来、「言わぬが花」、「口は災いの元」などと言い、自信のない発言や整理されていない発言、あるいは結論のない発言をするくらいなら、沈黙している方が遥かにましであるという意の言葉がある。

と言って、ただただ黙っていればよいのかということではなく、発言をする際には、その発言を裏付ける確かなものの存在が大事だということなのである。それでは、その確かなものとは何かと言うと、それは「人間力」とでも言うべきものではないだろうか。

ある新聞によれば、「『人間力』は大掴みに言えば、『人間学』と『実学』で構成される」のであり、「『実学』は高等教育から始めれば十分間に合うが、『人間学』はむしろ高等学校までにその基礎を徹底的に身につけなければならず、高等学校までに身に付けた基礎力が一生を決する」

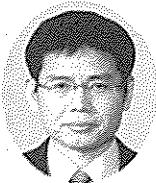
と指摘していた。まさに「鉄は熱いうちに打て」である。

さらに「『人間学』は『対人能力』と『基礎知識』から成り、中でも、最近の若者に欠如していると指摘されている『対人能力』については、『自己の確立』を図ることが先決であり、そのためには日本人であることの自覚、日本の歴史・伝統・文化に対する誇りを持つことが大事である」としている。

具体的には、例えば、目上の者への礼節、共同体の一員としての規律、謙譲の心、相互の思いやりなど、社会の一員として備えなければならない一通りのことがその基礎となる。

学校では、「人間学」の一方の要素である「基礎知識」、具体的には国語や数学、社会や理科、英語などを教えているが、その傍らで、「対人能力」の向上を見据え、「自己の確立」を図るために、さまざまな面から力を注いでいる。

上市高校では、道徳心のある、情操豊かな人間性が生徒たちに身につくよう、まずは学校全体で「挨拶の励行」に取り組み、少しずつ成果を上げている。また、1年生では「施設企業見学」や「ピアエデュケーション」、2年生では「県外進路研修」や「インターンシップ」、3年生では「進路ガイダンス」や「企業見学」、「ボランティア活動」等を通して、「人間学」と「実学」を身につけるべく、懸命な取り組みを行っているところである。今後も、総合学科の特徴である多岐にわたるメニューを生かし、生徒一人一人の能力を伸ばし、最終的に「人間力」を身につけた有為な形成者を社会に送り出すことで、大いに飛躍する学校となるよう、日々取り組んでいきたいと考えている。



「総合学科」で学ぶ上高生

副校長 伊 井 朋 幸

本校は、平成9年度総合学科単独校として新たな歩みを開始してから今年で17年目を迎え、既に総合学科14期2300余名の卒業生を送り出しています。総合学科で学ぶ生徒のキャッチフレーズは「一人ひとりの個性と能力を伸ばし、夢を育てるところ」です。ここであらためて現在の上高生が学ぶ「総合学科」をご紹介します。

総合学科の最大の特徴は、幅広い選択科目の中から、生徒それぞれの興味・関心や進路希望に応じて学習する科目を選ぶことができる点です。1年次では、全員同じ科目を学習しますが、2年次からは6つの分野（人文国際、自然科学、グリーン、スポーツ科学、福祉健康、情報ビジネス）の中から一つを選択し、生徒それぞれが科目を選びます。本校の生徒は、入学当初から進路実現に必要な学力や資格・必要な実績等を「総合的な学習」や「進路学習」を通して明らかにし、自分のための時間割をつくり、学習に取り組んでいるのです。

また、総合学科の特色である習熟度別学習や少人数学

習を生かし、確かな学力向上、能力の伸長を図っています。そして、「生徒一人ひとりの進路実現に向けたプログラム」の実践により、自分が何をやりたいのか、自分は何に向いているのか、自分は何ができるのかをじっくり考えながら、自分の将来の道を探し、将来に希望を持って立ち向かうことができる生徒を育てています。

ここ数年来の本校卒業生の進路先の割合は、大学・短大への進学は約25%、専門学校等への進学が約50%そして25%が就職するといった割合となっています。現在、女子の生徒の割合が7割近くになっており、将来の進路先として看護師や介護士等の福祉健康分野への進学、資格取得等のための情報ビジネス分野への進学、そして、家庭環境や金銭面を踏まえての就職を希望する生徒が増えてきています。

今の高校生は社会環境等の変化により、身体的には早熟傾向にあるものの精神的・社会的側面の発達が遅れ、産業・経済の変化、雇用の多様化等により、自らの将来に向けて希望や夢を描くことが難しくなっていると言われる。その中で総合学科で学ぶ上高生は、好きな分野を勉強し、自分の個性を伸ばし自分が目指す就職に結びつく学習に取り組み、自分「らしさ」や「夢」を育てています。上高「総合学科」に大いに期待して下さい。